医療現場：看護部

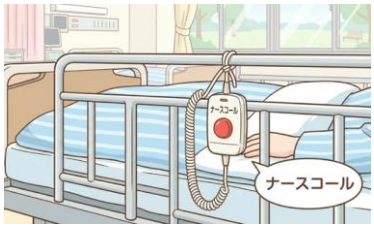
テーマ：押したい時そこにあるナースコール

■ 背景

各ベッドに設置されているナースコールは、入院患者が医療従事者にサポートを求めるための大切な手段である。

【ナースコールが利用される主な場面】

身体の不調・症状変化：痛み、息苦しさ、発熱・寒気など
排泄の援助：トイレへの移動、おむつ交換、失禁時の対応など
移動・体位変換の援助：起き上がり、車椅子への移乗など
生活上の困り事：水分補給、テレビや照明操作など



しかし、運用面でいくつかの課題がある。

【ナースコールの行方不明トラブル】

市販のナースコールはベッド柵に掛けたり、コードを巻き付けたりするのが一般的だが、しばしば位置が分からなくなるトラブルが発生する。

■ 布団や毛布、枕の下に埋もれている
■ ベッド柵の隙間に落ちやすい（挟まり易い）
■ 床に落ちて、ベッドの下に転がっている

コードは「長すぎても短すぎても」トラブルの原因となりやすく、現場のニーズを十分に満たす使い勝手の良い製品が少ないのが現状である。



■課題と解決のアイデア例

■ ベッド柵に引掛けるフックタイプ：柵への脱着が容易な事（様々な太さの棚に対応可能）、もしナースコールが床に触れると自動的にステーションへ情報が伝わると良い
■ ベッド柵にクリップで挟むタイプ：握力の弱い人でも使える事。柵の太さの制約を受けない事。クリップ部が破損してもクリップのみの交換で対応可能なもの
■ ベッド柵フォルダー収納タイプ：柵へフォルダーを取り付けてその中にナースコールを保持する。様々な種類のナースコールに対応出来る汎用的なサイズ設計であること
■ 枕元・ベッドボード固定型：既存品は体位変換が必要など患者にとって使い勝手が悪い。そのため起動ワードにより音声ガイダンス・音声操作が出来るもの
■ コードレス化
■ ベッドの付属品として付いている（ベッド一体型）
■ ベッド柵に添ってナースコールのコードを添わせて、患者の手元にコール部分が来るようする

■市場性

病院は全国で約8,000施設あり、全国の総病床数は約147万床である。すなわち1施設当りの平均ナースコール数は約180個と推定される（実際には予備を含めるともう少し多い）。さらに特養・老健など介護施設の入所定員数（約200万床）を考慮すると介護施設でも纏った数のナースコールが使用されている。

■ 看護部のホームページ
http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/